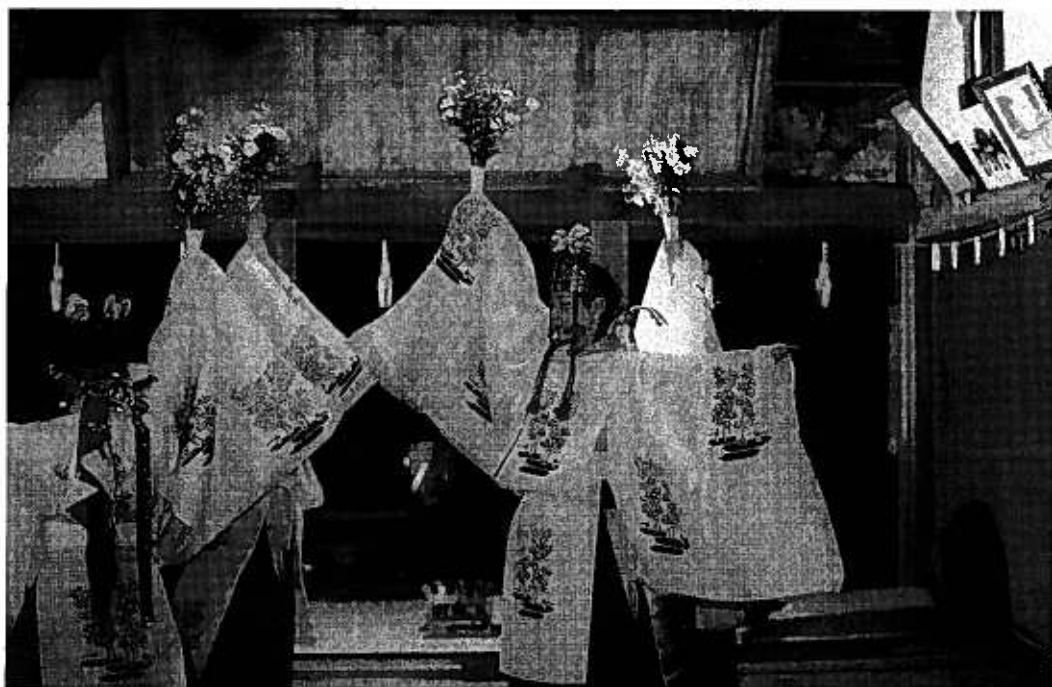
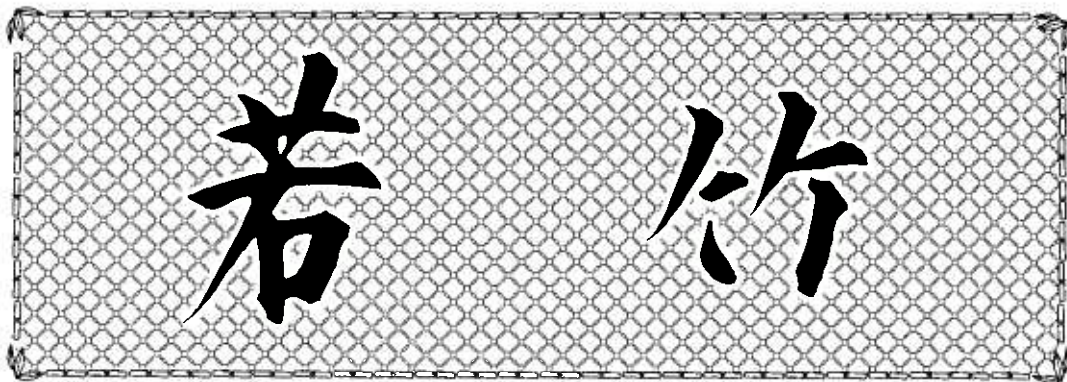


第三十六号



愛媛県神道青年会

事務局 〒790-0934 松山市居相町337
伊豫豆比古命神社 社務所内
TEL 089-956-0321

ご挨拶

愛媛県神道青年会

会長 二輪田 泰生



謹んで、
皇室の弥栄
と国家の隆
昌を表心よ
りお祈り申
上げます。
此度、二

期四年間に

わたり愛媛県神道青年会の発展に御尽力さ
れてこられました眞鍋前会長の後を受け、
去る五月八日開催の定時総会に於いて、図
らずも会長の重責を務めさせて戴くことと
なりました。

もとより浅学非才の身ではありませんが、
伝統ある愛媛県神道青年会の会長として微
力ながらも、先輩諸賢、会員の皆様の御指
導御協力を賜りながら、本会の発展の為に
努力する覚悟でございます。何卒宜しくお
願い申し上げます。

さて本年、愛媛県神道青年会は再発足三

十周年の記念すべき年を迎える事となりま
す。先輩諸賢の果たしてこられた業績を踏
まえ、この三十年という年月の意義、また、
なぜ再発足までして本会を立ち上げ活動し
てこられたのかと改めて考えながら、この
再発足三十周年に向けての記念式典、記念
事業等の具体的な検討を行いたいと存じ
ます。

また、再発足三十周年とあわせて今年度
神道青年全国協議会中央研修会が、神道青
年四国地区協議会の主管、愛媛県の担当に
より開催されます。

この中央研修会は全国を十地区にわけ十
年に一度四国地区が主管となり、今年度は
本会が担当するわけであります。平成十四
年三月十三日・十四日の二日間にわたり松
山市の全日空ホテルを主会場に、全国より
約四百名の青年神職が集い研修し親睦を深
める大きな事業であります。二十年前にも
愛媛県の担当で開催されたと聞いておりま
すので、この中央研修会に際しましても先
輩諸賢の御指導御協力をお願いするところ
でございます。

今、日本の状況は未曾有の不況の中にあ
り大変苦しい時代であります。その中で、

政治の世界においては小泉新内閣が発足し、
構造改革、財政再建を目指し国または国民
の生活が豊かになる様努力しております。
また、皇太子妃殿下雅子様におかれまして
はご懐妊が正式発表されました、今の不況
を忘れる様な明るいニュースで世の中は無
事にご出産されますことを国民が待ち望ん
でいる大変におめでたい年であります。

この様に新しく変化していく時代、本会
に於いても大きな節目である再発足三十周
年、中央研修会という二大事業を控え、執
行部も新たな気持ちで二大事業や其の他諸
活動諸問題に若さと行動力で邁進する所存
であります。

今後とも先輩諸賢、会員の皆様方におか
れましては、執行部共々より一層の御指導
御協力を賜ります様謹んでお願い申し上げ
ご挨拶と致します。



新役員紹介

平成十三年五月八日の総会にて次の新役員が承認されました。

相談役	相談役	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	事務局	副会長	副会長	副会長	会長
吉田充邦	真鍋豊孝	吉田充興	武智正人	渡部太輔	武知秀忠	十亀博行	大岡忠徳	和田正成	矢野敬陽	一宮康人	田内一弘	長曾我部昭一郎	小野哲也	早田雅雄	和気省一	三輪田泰生	
宇和島市和靈神社権禰宜	松山市伊豫豆比古命神社権禰宜	宇和島市宇和津彦神社権禰宜	西条市石鎚神社権宮司	宇和島市八幡神社権禰宜	松山市正友神社権禰宜	西条市石鎚神社権禰宜	西条市石鎚神社権禰宜	宇和島市和靈神社権禰宜	越智郡吉海町原八幡大神社宮司	西宇和郡保内町三島神社宮司	松山市朝日八幡神社宮司	松山市伊豫豆比古命神社権宮司	上浮穴郡面河村八幡神社宮司	新居浜市一宮神社権禰宜	伊予郡砥部町大宮八幡宮権宜	宇和島市和靈神社権禰宜	

地区協関係

神道青年四国地区協議会役員

副会長	三輪田泰生
理事	和気省一
理事	早田雅雄
理事	小野哲也
理事	長曾我部昭一郎
監事	真鍋豊孝
相談役	武智正人



退任挨拶

前愛媛県神道青年会

会長 眞鍋豊孝



第三十回
愛媛県神道
青年会定時
総会を以し
て任期満了
に伴い、会
長の職を辞
する事とな
りました。

平成九年より二期四年に亘って、会員各位は元より先輩諸兄には御支援・御協力を賜り衷心より厚く御礼申し上げる次第で御座います。

本年は当会再発足三十周年の佳節に加え、神道青年全国協議会中央研修会の担当県としての力量が問われると共に「愛媛県神道青年会」の名を全国に挙げる機会に恵まれました。

どうか三輪田会長を中心に一致団結し、この二大事業の完遂に向け御尽力され、成功裏に納められます事を祈念申し上げ退任に際しての御挨拶と致します。

愛媛県神道青年会ご卒業

今回の総会に於いて区切りをお迎えになられました先輩をご紹介致します。

愛媛縣護國神社権禰宜

宮田正秀様

櫛玉比売神社権禰宜

井上貞人様

長年に涉り当会に御尽力戴きまして誠にありがとうございました。

今後ともよろしくご指導・御鞭撻をお願い致します。

祝ご結婚

▼平成十三年五月吉日

当会副会長の和氣省一君が長年の沈黙を破り、乾坤一擲、とうとう「かおり」様と結婚致しました。

お二人の末永いご多幸とご家族のご繁栄を会員一同心よりお祈り申し上げます。

祝ご出産

▼平成十三年五月二十三日

当会の副会長小野哲也君に待望のご長男がお生まれになりました。お名前は「綜士(そうし)」様です。

小野家総領のご誕生を心より御慶び申し上げます。



☆会員の皆様へ☆

〜会費納入のお願い〜

今年度の愛媛県神道青年会の会費(八千円)を左記の所へ御入金下さい。

振込口座

口座番号 0167011237358
口座名 愛媛県神道青年会です。
よろしくお願い致します。

愛媛県神道青年会

平成13年度一般会計歳入・歳出予算書

自 平成13年度4月1日～至 平成14年3月31日

歳入の部

(単位：円)

項 目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付 記
1. 会 費	600,000	650,000	50,000	年会費・総会費他
2. 助 成 金	200,000	200,000	0	神社庁
3. 寄 付 金	900,000	1,050,000	150,000	県内神職寄付金・行事援助金
4. 雑 収 入	150,961	129,898	△ 21,063	神青協事業還付金・事業収入(床机頒布)
5. 繰 越 金	649,039	770,102	121,063	平成12年度より
歳入合計	2,500,000	2,800,000	300,000	

歳出の部

(単位：円)

項 目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付 記
1. 会 議 費	700,000	700,000	0	総会・役員会他
2. 研修教化費	300,000	300,000	0	観月神楽・慰問神楽・新年研修会他
3. 事 業 費	400,000	550,000	150,000	初詣啓蒙ポスター・床机頒布事業
4. 広 報 費	200,000	200,000	0	若竹発刊
5. 事 務 費	120,000	170,000	50,000	領収書其他事務用品・寄付金其他振替手数料
6. 備 品 費	10,000	10,000	0	
7. 旅 費	50,000	20,000	△ 30,000	旅費補助
8. 慶 弔 費	40,000	40,000	0	慶弔費・電報代
9. 分 担 費	275,000	275,000	0	神青協及び地区協賛出金・各種友好団体年会費
10. 交 通 費	20,000	20,000	0	会長手当
11. 雑 支 出	370,000	500,000	130,000	再発足会計・中央研修会に繰入
12. 予 備 費	15,000	15,000	0	
歳出合計	2,500,000	2,800,000	300,000	

歳入合計 2,800,000円

歳出合計 2,800,000円

差引残高 0円

平成12年度一般会計歳入・歳出決算書

自平成12年度4月1日～至平成13年3月31日

歳入の部

(単位：円)

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減(△減)	付記
1. 会費	600,000	862,000	262,000	年会費・総会費・新年互礼会費・観月神楽慰労会費
2. 助成金	200,000	200,000	0	神社庁
3. 寄付金	900,000	1,552,000	622,000	県内神職寄付金・行事援助金
4. 雑収入	150,961	418,300	267,339	神青協事業還付金・事業収入(床机頒布)
5. 繰越金	649,039	649,039	0	平成11年度より
歳入合計	2,500,000	3,651,339	1,151,339	

歳出の部

(単位：円)

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減(△減)	付記
1. 会議費	700,000	700,794	794	総会・新年互礼会費・役員会・観月慰労会・監査会
2. 研修教化費	300,000	120,451	179,549	観月神楽・慰問神楽・新年研修会
3. 事業費	400,000	264,676	135,324	初詣啓蒙ポスター
4. 広報費	200,000	65,070	134,930	若竹35号
5. 事務費	120,000	39,734	80,266	領収書其の他事務用品・寄付金其の他振替手数料
6. 備品費	10,000	0	10,000	
7. 旅費	50,000	50,000	0	神青協事業委員三輪田旅費補助
8. 慶弔費	40,000	45,800	5,800	慶弔費・電報代
9. 分担費	275,000	270,000	5,000	神青協及び地区協賛出金・各種友好団体年会費
10. 交通費	20,000	20,000	0	会長手当
11. 雑支出	370,000	1,304,757	934,757	再発足会計30万・中央研修会会計100万
12. 予備費	15,000	0	15,000	
歳出合計	2,500,000	2,881,237	381,237	

歳入合計 3,651,339円

歳出合計 2,881,237円

差引残高 770,102円 平成13年度に繰越

上記の通り相違ありません

監事 武智正人

監事 井上貞人 代理 宮田正秀

平成12年度特別会計（基金）

宇和島市朝日町郵便局

項 目	金 額
定 額 貯 金	300,000
通 常 貯 金	57,655
合 計	357,655

上記の通り相違ありません

監事 武智 正 人

監事 井上 貞 人 代理 宮田 正 秀

◆愛媛県神道青年会より頒布品のお知らせ◆

四人掛床几

長さ180cm×幅33cm×高さ44cm（耐水幌布使用）

※ 頒布価格 18,000円

～ ご注文・お問い合わせ ～

愛媛県神道青年会事務局

〒790-0934

愛媛県松山市居相町337 伊豫豆比古命神社

TEL (089) 956-0321 FAX (089) 956-3323

E-mail tubaki@jade.dti.ne.jp

【助成金】

(金貳拾萬圓也)

愛媛縣神社廳 殿

【平成十二年度寄付助成(芳名)】

【金貳拾萬圓也】

(金壹拾萬圓也)

石鎚神社 十亀興美殿

(金伍萬圓也)

大山祇神社 三島喜徳殿

(金參萬圓也)

一宮神社 矢野哲夫殿

(金貳萬圓也)

神社 新居浜支部 殿

(金壹萬圓也)

盛八幡大神社 高橋幸意殿

(金壹萬圓也)

神社 大三島支部 殿

神社 西条支部 殿

今宮神社 佐藤伊都男殿

橘新宮神社 高橋佳幹殿

大井八幡大神社 榑部浄文殿

八幡宮 合田正士殿

潮早神社 浅海宜安殿

石清水八幡宮 芥川亮殿

嘉母神社 石川漠見殿

玉生八幡神社 平田茂光殿

浜上神社 宮本担殿

石岡神社 飯尾宏隆殿

萩岡神社 越智基晃殿

三嶋神社 大岡忠臣殿

須賀神社 堀川泰規殿

熊野神社 藤原裕博殿

姫坂神社 田邊捷殿

三島神社 沼崎嘉吉殿

綾延神社 垂水隆昌殿

(金八仟圓也)

渦浦八幡大神社 森正康殿

(金伍仟圓也)

弓削神社 宮原浄人殿

三皇神社 熊本真克殿

岩城八幡神社 八原敬陸殿

大西神社 及川徹也殿

高浜八幡神社 龜山和磨殿

喜多浦八幡大神社 馬越祥穂殿

三島神社 眞鍋靖殿

奈良原神社 竹之内紀久志磨子殿

(金參仟圓也)

土居神社 矢野耕一郎殿

黒嶋神社 近藤忠孝殿

西條神社 塩出光雅殿

(金貳仟圓也)

熊野三所神社 熊本和仁殿

【金貳拾萬圓也】

(金壹拾萬圓也)

伊豫豆比古命神社

(金伍萬圓也)

愛媛縣護國神社

(金參萬圓也)

神社 松山支部 殿

(金貳萬四仟圓也)

神社 伊予支部 殿

(金貳萬圓也)

神社 久万支部 殿

嚴島神社 柳原宰殿

大宮八幡神社 眞鍋和敏殿

還熊八幡神社 玉井次明殿

(金壹萬圓也)

神社 小田支部 殿

(金壹萬圓也)

雄郡神社 高市誠司殿

忽那島八幡宮 大宮四郎殿

井手神社 横田貞子殿

伊曾能神社 武市盛行殿

八幡神社 小野哲也殿

伊豫稻荷神社 星野暢廣殿

櫛玉比売命神社 井上貞人殿

勝岡八幡神社 武智雄三殿

三嶋大明神社 武智裕殿

長曾我部延昭殿

波爾莊殿

松山支部 殿

伊予支部 殿

久万支部 殿

柳原宰殿

眞鍋和敏殿

玉井次明殿

小田支部 殿

高市誠司殿

大宮四郎殿

横田貞子殿

武市盛行殿

小野哲也殿

三島神社	高岸三島神社	南山神社	立石神社	天満天神社	三島神社	新田神社	新田八幡神社	八坂神社	伍社天神社	當田八幡神社	阿沼美神社	白山神社	三島神社	湊三嶋大明神社	阿沼美神社	廣田神社	船越和氣比売神社	天満神社	徳威三嶋宮	伊豫稻荷神社	神社	神社	正八幡神社	桑原八幡神社	波賀部神社	河崎神社	
玉井貞殿	武智啓殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	額田重則殿	田内逸和殿	高市守久殿	高市俊次殿	渡部定詔殿	大内信麿殿	武智盛明殿	重松長英殿	武智成保殿	別府頼房殿	星野萬四郎殿	東温支部殿	神社	神社	権名津千風殿	石丸典良殿	武智彰宏殿	梅木匡人殿

同予地区

三島神社	(金四阡圓也)	大元神社	多賀神社	黄幡神社	神明神社	龍王神社	八幡神社	(金伍阡圓也)	三島神社	天満神社	(金壹萬圓也)	八幡神社	神社	(金壹萬伍阡圓也)	神社	神社	神社	神社	神社	(金貳萬圓也)	神社	(金參萬圓也)	和靈神社	(金七萬圓也)			
古谷辰夫殿		井上直隆殿	久保凸丸殿	青木武司殿	宮本俊孝殿	今城幸人殿	清家貞宏殿		清末サカエ殿	宮本稚秋殿		吉岡太瑯殿	南宇和支部殿	喜多郡支部殿	八幡浜支部殿	宇和海支部殿	宇和島支部殿	宇和山支部殿				三輪田元亮殿					

(金參阡圓也)

大元神社 矢野賀久殿
 宇都宮神社 石田敏雄殿
 神明神社 氏本学殿

【第二十九回定時総会援助金】

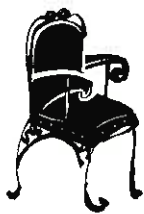
(金壹萬圓也)

愛媛縣神社廳殿
 愛媛県女子神職会殿
 三輪田元亮殿
 波爾莊殿
 愛媛縣護國神社
 伊豫豆比古命神社
 長曾我部延昭殿
 柳原幸殿
 大宮八幡神社
 眞鍋和敏殿
 星野暢廣殿
 高忍日売神社
 後藤正宣殿
 客王神社
 二神良昌殿

【觀月神樂の夕べ援助金】

(金壹萬圓也)

伊豫豆比古命神社
 長曾我部延昭殿



【新年互礼会援助金】

- (金式萬圓也) 八幡神社 清家貞宏殿
- (金壹萬圓也) 神 社 序 松山支部殿
- 和 靈 神社 愛媛県女子神職会殿
- 愛媛縣護國神社 三輪田元亮殿
- 伊豫豆比古命神社 波爾 莊殿
- 殿 島 神社 長曾我部延昭殿
- 高忍日売神社 柳原 宰殿
- 客王 神社 後藤正宣殿
- (金伍仟圓也) 二神良昌殿
- 愛媛県神社廳 殿

平成十二年度活動報告

起・平成十二年四月 一日
至・平成十三年三月三十一日

平成十二年度

- 四月 二十日 第一回役員会 (伊豫豆比古命神社) 十名出席
- 十八日 神青協第五十二回定例総会 (神社序) 眞鍋・三輪田出席

五月 九日

第二回役員会 (伊豫豆比古命神社) 十三名出席
第二十九回定時総会 (国際ホテル松山) 四十四名出席

十七日

日本会議愛媛県本部総会 (松山市) 眞鍋出席
神道行法禊鍊成会 (高松市) 眞鍋以下五名出席

十九日

地区協役員会 (高松市) 眞鍋以下六名出席
臨時役員会 (伊豫豆比古命神社) 八名出席

三十日

森内閣総理大臣来県講演 (愛媛県民文化会館) 三名出席
北方領土愛媛県民会議総会 (松山市) 眞鍋出席

十三日

第三回役員会 (伊豫豆比古命神社) 九名出席
慰勞神楽演奏打ち合わせ (宇和町老人ホーム松葉寮)

六月 十三日

眞鍋豊孝・吉田(邦)打合せ (神社序) 田内出席
神葬祭冊子編纂委員会 (三津殿島神社) 眞鍋以下五名

七月 十一日

第四回役員会 (伊豫豆比古命神社) 九名出席
第六回地区協総会 (徳島市) 眞鍋以下七名出席

九月 五日

慰問神楽演奏会 (宇和町老人ホーム松葉寮) 眞鍋以下十四名奉仕

十一日

第五回役員会 (伊豫豆比古命神社) 十一名出席
観月神楽の夕べ (勝岡八幡神社) 多数奉仕

二十七日

日本会議愛媛県本部事務局会議 (松山市) 和氣出席
神葬祭冊子編纂委員会 (三津殿島神社) 眞鍋以下五名

十月 二十六日

第六回役員会 (伊豫豆比古命神社) 十名出席
観月神楽慰勞並に反省会 (松山市) 眞鍋以下二十名出席

十一月 八日

神宮大麻・初詣ポスター発送作業 (神社序) 眞鍋以下十二名奉仕
神青協臨時総会 (神社本庁) 眞鍋・三輪田出席

二十五日

三島・森田両烈士慰靈祭 (伊豫豆比古命神社) 眞鍋以下七名奉仕

二十九日

第七回役員会 (伊豫豆比古命神社) 十一名出席
地区協役員会 (伊豫豆比古命神社) 眞鍋以下七名出席

十二月 十八日 第八回役員会 (愛媛護國神社) 十二名出席

平成十二年九月十五日

＊松山市勝岡八幡神社

観月神楽の夕べ

平成十二年九月十五日金曜日、松山市勝岡町に鎮座致します勝岡八幡神社にて第十八回観月神楽の夕べを開催させていただきました。



日中降り続いた雨も夕刻にはあがり、宵闇迫る鎮守の森には多くの参拝者・観覧者を迎えて勝岡八幡神社武

智宮司様の御挨拶の後、伊予神楽による神楽火焼之舞等七つの楽曲をご奉納致します。

した。

参拝の方々や神社総代の皆様にも御好評頂き、今後の活動の大いなる励みになりました。また演奏終了後には心尽くしの直会も頂き、奉仕者一同感激の極みでございました。

また今回も多くの青年会OBの方にもご助力戴き感謝の念に絶えません。

今後も絶える事無くこの行事を継続・発展させて行きたい所存でございます。

(編集部)

平成十二年十月二十六日

＊初詣啓蒙ポスター発送

＊神宮大麻仕分作業助勢

愛媛県神社庁に於いて愛媛県神道青年会恒例行事の初詣啓蒙ポスターの発送作業、並びに神宮大麻の仕分け・発送準備作業を行った。

今年の初詣啓蒙ポスターは当会会員の氏本学氏にそのデザインを依頼し、今までに無く斬新なデザインのポスターとなった。

会員の中には様々な分野に秀でてい

るので今後もこの様に会員の潜在能力を引き出す試みが出来るとしての幅を広げ、非常に良い結果を生み出すのではないかと感じた。

またこの日の作業に対して、県下の青年神職が集まる事自体も、ある意味親睦を深める為にも有意義であると思う。

午前九時より始まった作業も奉仕会員の真摯な奉仕により午後二時には滞りなく終了した。

(編集部)

平成十二年十一月二十五日

＊三島・森田両烈士慰霊祭

夕闇迫る午後五時より伊豫豆比古命神社務所二階に設営された祭場にて三島・森田両烈士追悼三十周年慰霊祭が厳粛に執り行われた。

昨今の社会情勢を鑑みるに、この両烈士の顕された「国を憂うところ」を思うにつけ、今後の我々の在り方を問わずにはいられない気持ちになる。

一年に一度のこの慰霊祭を通じ当会会員としても深く、真摯にこの両烈士の「云わんとする事」を考へる事も我々には重要且つ必要な事である。

今後両烈士の慰霊祭奉仕を通じ、変わらぬ「国を思う心」を育み、そして我々を取り囲む周辺社会へ伝播していきたいと思う。

(編集部)

平成十三年一月十六日

＊新年互礼会

南国四国にしては珍しい大雪となったこの日、新しい年を迎え、愛媛県神道青年会による互礼会が国際ホテル松山にて開催されました。

午後二時、愛媛縣護國神社にて役員集合。そして正式参拝を済ませ午後四時過ぎ迄役員会を開催、そして場所を国際ホテル松山に移し、午後五時より臨時総会、そして三津厳島神社宮司・愛媛県祭式講師の柳原幸先生の講義を賜り、午後六時半より新年互礼会を和やかに開催致しました。

数多くのご来賓の方、また諸先輩にもご出席賜り会員一同貴重なお話やご教授を戴きました。

この新しい一年、充実した実りの多い年にしようとの誓い合い飲み干す盃に当会の発展、ご参集の皆様のご健勝を祈らずにはいられませんでした。

(編集部)

平成十三年二月二十一・二十二日

＊富山県中央研修会

私は正直、中央研修会に参加するのは今回が初めてであった。今までは仕事が理由で参加できなかった。いや、自分の不勉強さが負い目になり参加するのを拒否していたのかもしれない。今回、次回開催県が愛媛県ということで役員は全員参加の命が下された。抵抗感があつたのは否めないが、ここは大事の前の小事と自分を戒めながら、みんな参加するので楽しいかなと思ひ、何とか仕事の方もクリアーできたので参加した。

ここで初体験の研修会の感想を述べてみ

たい。まず、この研修会の目的は自己研鑽もあつたが、中央研修会の運営を具体的に観察し、来年の研修会運営の参考とすることであつた。富山神青の方々の運営を見させていただいたが、ここまで微に入り細にわたった運営を愛媛県においてもしなければいけないのかと愕然とした。改めて担当県の心労を感じさせられた。しかし、逆に来年、愛媛県での研修会に参加された方々には内容、応対ともに本当に満足していただこうという気持ちもなつた。そのためには我々青年会の全員が志を一つにして対応しなければ成功させることは出来ない。愛媛神青会員の皆様方の御協力を切にお願ひしたい。

次に今回の研修会のテーマが時局問題を取り入れ関心の高いものであつたのが印象に残つた。講師の先生方も、現代コリア編集長、西岡力先生や中国研究家、黄文雄先生、元内閣安全保障室長の佐々淳行先生と正に東アジア諸国の歴史と現状を課題とし講義していただくには豪華すぎる講師陣であつた。中央研修会は講師が命といつても

過言ではない。当県の研修会も先ず関心の高いテーマを取り入れ、そのテーマに造詣が深く且つ著名な講師を招くべきであると感じた。

最後に今回の中央研修会は本当に有意義な研修会であったと思う。こういう風に感じさせられたことは言うまでもなく富山神青の対応のすばらしさにあると思う。来年は我々が全国の神青の同志に有意義であったと言わしめる番である。

(小野哲也)

平成十三年五月八日

＊定時総会

去る五月八日、国際ホテル松山に於いて愛媛県神道青年会 第三十回定時総会が開催された。

開会式の後、眞鍋会長より挨拶があり、吉田充興氏を議長に選出し議案審議に移った。議案としては先ず「平成十二年度会務報告」、「一般会計・特別会計歳入歳出決算」、「監査報告」が審議され全て滞りな

く承認された。

次に「新役員選出」の議案となり、新会長に三輪田泰生氏、そして新たに十六名の役員が選出され、承認された。

「平成十三年活動計画」に於いては重点目標として当会の再発足三十周年記念事業、そして神青協中央研修会の開催県としての責務を果たすとともに、広報の強化を上げ、「平成十三年度一般会計予算」も承認され今期の当会の方向性が決定された。

三輪田新会長より敬神生活の綱領の文頭にある(実践に努めて以て大道を宣揚すること)を旨に頑張っていきたいとの挨拶があり、第三十回定時総会は無事に閉会された。

(早田雅雄)

作法の扉

皆さん、こんにちは。表題に「作法の扉」なんてオーバーな表現されて困ってます。

今日はそうではなく、フランクに又内容も作法云々とかいうレベルではなく日常の

事として、きつとこれを御覧になったお方は「気にもしてなかった」と大半がおっしゃるのではないかと思います。

神主さんがそうなんだから、一般のお方は勿論の事、高級老舗旅館のお接待、挙句の果てその道のプロでも間違っている御時世なんです。回りくどくてすみません。実は「急須・キユースの蓋」のお話です。

急須と云ってもピンからキリ、それこそ何百円から何百万円まで価格差のある茶器です。しかし安かろうが高かろうが、その急須にも蓋に一箇所穴が開いてますよね。あの穴一体何でしょう。そう「空気穴」なんですよ。

若いお方は逆に経験された事があるかと思いますが、カップ麺の「焼きそば」お湯を入れて三分つてやつですね。麺が解れたらお湯を捨てますよね。蓋に二箇所穴が開いていて、一方はお湯を出す穴そしてもう一方が空気穴なんです。何百万もする急須にも付いている穴も原理は一緒なんです。空気穴があるからスムーズに中身が出るんですよ。しかしここで問題、焼きそ

ばは如何でも良いのですが、急須の蓋の穴の位置はいったいどこにするのが正しいのでしょうか? 『そんなのどこでもよからう』これが神主さんのみならず国民大半の御意見でしょう。でもそこを何とか考え直して戴いて、近くにある絵入りの急須を一度御覧になって下さい。そしてその蓋を動かして空気穴を移動させてみて下さい。どこかで蓋の絵と胴の絵が一致するでしょう。

そうなんです「口の付け根の位置」が正解です。そういう風に昔から職人さんによって急須は作られているのです。

実はこの前の原稿を広報委員さんに提出した夜、たまたま某国営放送にチャンネルを変えたら「煎茶の正しい入れ方」なる番組が目にとまりました。なんとタイムリー、一時間程度の番組の中で幾度となく急須でお茶を入れるシーンが出てきました。テレビ用です。立派な茶器を使って尚且つ「茶のあじわいは茶器によっても変わる」「食べ物だって器が大事」なんて偉い先生が御丁寧に御説明なさってました。

ところがその急須の空気穴の位置が無茶苦茶、一度足りとも正しくなかったんです。申し訳ないのですが、飲んでみたいと思いませんでしたよ。救いは、現代風「前衛的煎茶バー」なるものが紹介されていて、若くて粹なマスターが煎茶を入れる場面がありました。こちらはしっかり空気穴が口の付け根でしたよ。こんな些細な事ですが「このバー行ってみたい」と思いましたよ。この「空気穴の位置」人にチョット自慢して教えてあげて下さい。馬鹿にしちゃ駄目、これも立派な「伝統文化継承の教化」ですよ。ではまたお会いします。



新入会員



おみ けんじ
ただの 野矢

(石鎚神社出仕)

昭和五十三年十一月二十八日生
新居浜市外山町七―三三



わかやま しずお
若宮 丈志

(愛媛県護國神社出仕)

昭和五十一年十一月二十二日生
松山市御幸一丁目四七六番地



之 淨 部 櫛

(石鏡神社権禰宜)
昭和四十七年四月八日生
越智郡大西町宮脇甲一四三七―

あい はら むね ひと
相 原 宗 仁

(浮嶋神社権禰宜)
昭和五十一年二月十九日生
温泉郡重信町牛渕七一八

新会員の皆様には今後とも当会に対してのご尽力を賜ります事をお願い申し上げます。現会員の皆様も新入会員の皆様と共に明浄正直を旨として今後の活動にお力添えいただきます様お願い申し上げます。

編集後記

第三十六号「若竹」をここにお送り致します。

前回、祭式に関する文面をお載せしました所、非常に面白い試みだと好評を戴きましたが、耳が痛い方もいらした事とは存じますが、正しい知識を身に付けるといふ意欲は我々青年に限らず、例え我が身より年輩の人がいなくなっても持つていたいものです。

また雑学の中にも祭式や日本の美しい伝統・文化に通じる所も多々ありますので、今後も紙面の許す限り、執筆していただける限り掲載して行きたいと思えます。

最近意的に大東亜戦争に関する小説を読むように心掛けています。我々の年代なら、元亀・天正の胸躍る戦国物の小説や幕末・維新に関するものは比較的多くの人が読まれていると思えます。

戦後教育の真つ只中に育つた私達の年代は、その第二次世界大戦といわれる時代の歴史に関する書物を意識的に遠ざけられた、また深く認識するまでの内容を教わらなかつたという気がします。

勿論私個人の不勉強の故なのでしょう

が、私の中の歴史は一度明治維新で途切れ、その後戦後の歴史へ飛んでいました。歴史は一本の線です。それが途中で途切れる事はありません。ましてやある時代を知ろうと思えば最低その前後の出来事を知らなければ全体像は見えません。

その「重い」時代を知る為に先ず感情移入し易い「小説」から始める事にしました。もちろんノンフィクション物です。そこから徐々に深層に迫って行きたいと思っております。

「なんだか重いモノ読んでいるな」と友人から言われますが、本人は内容の軽い・重いではなく、ただ知りたいから読んでいます。

おおよそその時代の全体像がこれのお粗末な頭に茫洋と浮かんだら、私の中での「歴史」は繋がりが、現在のこの時代も神代の昔からの延長線上に位置すると思っております。

人それぞれ考えやその置かれている環境、また感性は違いますのでその後どの様な答えを導き出すのかは触れるべきではないと思えますが、何も知らずに答えを出す前に最低限の知識とそこから醸し出される感情や「思い」を踏まえて歴史という我が国の「思い出」を感受したいと思っております。

緑萌ゆる初夏の社頭にて